

生前の功績が称えられる

●故宮野徳治氏叙勲伝達式



▲熊谷淳・秋田県北秋田地域振興局長から叙勲の伝達を受ける宮野ヤエさん

元森吉町消防団分団長で今年7月に逝去された宮野徳治氏(享年77歳・小又)が、このほど叙勲の瑞宝単光章を受章し、9月2日に市役所で伝達式が行われました。

宮野氏は昭和33年12月に旧森吉町消防団に入団し、平成11年12月までの41年の長きにわたって消防団員を務められ、その間、副分団長や分団長などを歴任し、豊かな消防知識と経験を生かし部下の育成と親和に努め、強い責任感のもと消防団活動に尽力されました。

伝達式には妻のヤエさん(77歳)と長男の順一さん(56歳・秋田市)が出席。伝達を受けヤエさんは「このような立派な章をいただき感謝しています」と話しました。

いつまでもご壮健で

●北秋田市敬老式



▲阿仁地区敬老式で、記念品の贈呈を受ける米寿の代表者

北秋田市敬老式が、9月10日の森吉地区を皮切りに市内10か所で開かれ、式典や祝宴などで長寿を祝いました。

今年の対象者は、市全体で8291人(男2908人、女5383人)です。

15日に阿仁体育館で行われた阿仁地区敬老式には、対象者1026人のうち約290人が出席。式典で津谷市長は「豊かな経験と知識を若い方々に教えていただきながら、ご壮健にお過ごしください」などとあいさつし、新敬老者や米寿、白寿を迎えられた方々に記念品を贈呈しました。

式典後の祝宴では、参加者がお互いの近況を語り合い、園児や児童、舞踊グループなどによる踊りを観賞しながら、楽しい時間を過ごしていました。

往年の名車が勢ぞろい

●第6回ノスタルジックカーフェスタin北欧の杜



▲お気に入りの車を見つけて、足を止めて見入る来場者

「第6回ノスタルジックカーフェスタin北欧の杜」が、8月24日に県立北欧の杜公園駐車場で行われ、車の愛好家や家族連れなどにぎわいました。

会場には、昭和38年式のダットサンブルーバード、40年式のグロリア、40年代製造のハコスカやケンメリと呼ばれるスカイライン、41年式のメグロスGのバイクなど、丹念に整備された往年の名車約120台が並び、来場者はお気に入りの車を見つけて写真に撮ったり、オーナーと車談義に花を咲かせたりしながら楽しんでいました。

また、会場内には北秋田市の食を提供するコーナーや、踊りや歌を披露する特設ステージが設けられ、イベントを一層盛り上げていました。

オーケストラの演奏に感動

●東京フィルが阿仁合小学校で公演



▲70人を超えるオーケストラの演奏を楽しみました

東京フィルハーモニー交響楽団の公演が、9月11日に阿仁合小学校(佐藤高義校長・児童数42人)で行われ、同校の児童のほか、大阿仁小・阿仁中の児童生徒、地域住民など約350人がプロの演奏に耳を傾けました。

公演は、文化庁の「文化芸術による子どもの育成事業(巡回公演事業)」の一環で実施されました。

公演ではオーケストラ楽器の紹介や指揮体験のほか、阿仁合小の児童たちが、ベートーヴェンの「交響曲第5番『運命』」に合わせてボデイーパーカッションを披露したり、シベリウスの交響詩「フィンランディア」に阿仁の歴史や自然を盛り込んだ歌詞をつけ、オーケストラの演奏で合唱したりしました。

空に親しむイベントを楽しむ

●大館能代空港スカイフェスタ2014



▲大勢の来場者が見学した超軽量動力飛行機の展示コーナー

空の日と空の旬間を記念する「大館能代空港スカイフェスタ2014」が9月7日に大館能代空港で開かれ、空港関係車両の展示や熱気球搭乗体験など多彩なイベントに大勢の来場者が訪れました。

熱気球搭乗体験は大人気のイベントで、搭乗した人たちが、上空から下で見守る家族や友人に楽しそうに手を振る光景が広がりました。また、ふだん入ることのできない滑走路を見学するバスツアー「空港探検隊」や子どもたちがパイロットと客室乗務員の制服を試着するコーナー、飛行機の牽引車などの「空港で働くクルマの展示」、「超軽量動力飛行機の展示」など盛りだくさんのイベントが繰り広げられました。

イベントを通して伊勢堂岱遺跡をPR

●第14回北秋田市縄文まつり



▲火おこしに挑戦し、縄文文化を体験する子ども

国指定史跡「伊勢堂岱遺跡」などをPRする第14回北秋田市縄文まつりが、8月30日に文化会館で開催され、来場者は土偶づくりや勾玉づくりなどで縄文時代の文化を体験しました。

縄文まつりは、平成13年に国の指定史跡になったことをきっかけにはじめたもので、現在、伊勢堂岱遺跡で環境整備が進められていることから、会場を文化会館に移して開催しました。

会場では、当時の装飾品だった勾玉をつくるコーナーや土器・土偶づくり、火おこしの体験メニューのほか、縄文をイメージした歌や踊りが披露されるなど、盛りだくさんのイベントが用意され、来場者は縄文時代の生活を学びながら楽しい時間を過ごしていました。